

太平洋戦争終戦八十年

難波家と戦争

（倉敷十六屋令和七年夏の特別展示）

場所..倉敷十六屋難波家本宅（裏面の地図をご参照ください）
会期..令和七年七月十二日（土）～八月二十五日（月）
時間..午前十時～午後四時
定休日..火曜日、水曜日（八月十二日、十三日は閉館します）
入館料..一〇〇〇円（小学生は無料）

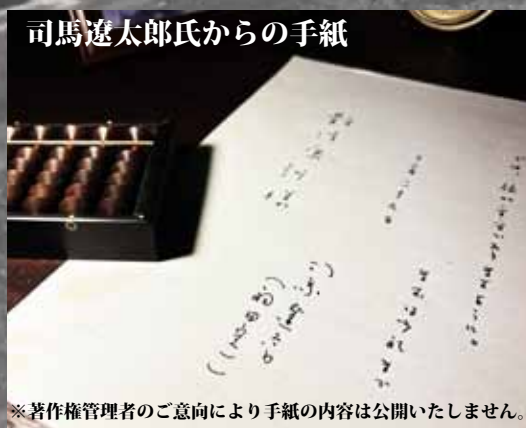
司馬遼太郎氏の窮地を救った男

今から八十二年前の難波家本宅前に立つ難波康訓。
後に彼はソ連で窮地に立った司馬遼太郎を救う。
難波家に残された司馬遼太郎氏からの手紙で判明した
学徒出陣後の康訓の軍隊生活とは？

倉敷十六屋 難波家本宅について

倉敷十六屋 難波家本宅は倉敷美観地区東端の東町地区の築117年の古民家を利用した町家見学施設です。難波家15代目の現当主が直接入館者をご案内して建物と建物内に残る古民具のご説明をいたします。

司馬遼太郎氏からの手紙



※著作権管理者のご意向により手紙の内容は公開いたしません。

千葉陸軍戦車学校



※難波康訓は前列右から2人目

現在の難波家本宅前



難波家と戦争

難波家の人々は如何に戦争と向き合ってきたか

■難波康訓の出征

昭和十八年十一月、当時東京帝国大学に在学中の難波康訓（当家十三代目難波富一郎の長男）は、学徒出陣により出征することになりました。台湾に単身赴任中の富一郎を除いた難波家一同は倉敷東町の難波家本宅に集まり、本宅前で近隣の人たちを招いた盛大な出征式がおこなわれました。



出征式当日、難波家の座敷での家族写真



入営の幟と寄せ書きの日の丸

今回の特別展示「難波家と戦争」では当家に残された入営幟、寄せ書きの日の丸、出征式の写真などを展示します。

■司馬遼太郎と戦車学校

昭和十八年十一月学徒出陣で兵庫県の青野ヶ原の戦車十九連隊に入隊した難波康訓は福田定一と名乗る一人の青年と出会いました。その三十年後、帝人で輸出部長をしていた康訓は人気作家司馬遼太郎となった福田青年と意外な場所ですれ違いました。二人の再開は司馬遼太郎の著書「街道をゆく」モンゴル紀行」で描かれています。



康訓はソ連に向う飛行機を待つ新潟空港で司馬氏に出会う。その後ソ連国内で彼の窮地を救うことになる。

再会した二人の話題は神戸、満州、ソ連、モンゴル、ベトナムと国境をまたぎ三十年の時間を超えて広がっていきます。

難波家で発見された司馬遼太郎から康訓に充てた手紙、難波家の蔵に残された大量の戦車部隊での訓練中の写真、そして二人の再開が描かれた司馬遼太郎の著書「街道をゆく」モンゴル紀行」。これらの資料が、戦後八十年の現在において混迷する世界情勢を考えるきっかけになればと思います。

※著作権管理者様の御意向により司馬遼太郎氏からの手紙は公開いたしません。

主要展示物



リヒャルト・シュトラウス作曲
皇紀 2600 年 祝典音楽



防空頭巾



灯火管制カバー



愛国少年の部屋

■同時開催「夏のしつらえとガラスの器展」

障子・襖を外し御簾に付け替えた二間続きの開放感あふれる座敷で、明治・大正・昭和初期のガラスの器をお楽しみください。



町家と古民具の博物館 倉敷十六屋難波家本宅



〒710-0053 岡山県倉敷市東町 1-15
TEL:086-422-0106

↓来館のご予約はこちらから↓

Instagram



@KURASHIKI_JUROKUYA

公式ホームページ



https://jurokuya.com

